


地域医療情報誌

医療・介護・福祉の専門誌

P  **Medical**
Pivot

メディカル ピボット

早期発見・早期治療のために
ドクターからのメッセージ！

本誌ホームページにアクセスしますと動画で医院の先生方のお話や治療内容が見られます。 <http://www.mp119.jp>

大田区版第7号

年間保存版

2008年版

内閣府特定非営利活動法人／NPO

花咲かじいさん



くどうちあき脳神経外科クリニック

院長 工藤 千秋

英国パーミンガム大学
東京労災病院脳神経外科副部長
平成13年くどうちあき脳神経外科クリニック開院
アメリカ脳神経外科学会会員
国際小児脳神経外科学会会員
東邦大学客員講師
英国パーミンガム大学客員研究員
医学博士

地元の先生が教える 病氣と治療

むかしむかし上(かみ)のじいさまと下(しも)のじいさまが魚を採りにいったとな、で始まる花咲かじいさんの話は、欲張りな上のじいさまは殿様からきつくいお仕置きを受けたそうなの。

因果応報、カルマの法則、人を危めば穴二つ、自らまいた種は自ら摘まねばならぬ。私たちはこのような言葉をよく耳にします。

一般的には、悪いことをすれば必ず自分の身に同じことが跳ね返ってくるから悪いことは慎みなさい、という意味と教えてもらっています。ところが、最近グッドカルマというものがあることを聞きました。

これは人にいいことを施せば、自分にもいいことがもどってくる、ということなのです。

こころの優しい人は、本当にほのぼのとしたいお顔をされています。顔が輝いています。そのような方たちは、眉間にあるチャクラ、第三の眼が開いているとも聞きました。

修行を積んだ方たちは、このチャクラが開くと、脳下垂体、松果体が次々と開き、心の目で人を観て感じるということです。

医学的にみると、眉間の奥、深さ約5-6センチのところに脳下垂体があり、その奥約5-6センチの場所に松果体があり、さらにその後ろ約5-6センチの位置にもを視る脳があります。

しかもこれらの構造は眉間の中央から後ろに向って一直線上に存在し

ています。

そしてどの部位の脳も美しい薄ピンク色に輝いています。身と心の修行の結果、額にある眼からものごとく観えるようになる、透視ができるようになるということ、この医学的事実が余りにも一致していることに私は脳外科医、脳科学者として、また心を癒すエンジェルセラピストとして驚きを隠せません。神が創られた最終産物は、かくも精巧で、かくも美しいものかと。

気持ちのいい下のじいさんに意地悪をしたり、ワンちゃんを虐め、拳の果てにねたみの念から人の成功を真似したくて盗みをはたらき、最後に殿様に捕らえられた、この物語の作者は、ひよつとしたら我々凡人にグッドカルマとバッドカルマの存在を知らせるために、この世に下り立った、第三の眼が開いた聖人だったのではないかという気がしてなりません。

●悠久なるフレスコ画

クリニック移転オープンにやせて、人類がはじめてラスコー洞窟に壁画を書いたから、どれくらいの月日が流れたでしょうか？

イタリアを訪れた時、中世の教会の大聖堂に大きなフレスコ画があったことを覚えています。幾多の戦乱と多くの人の往来を見つめてきたそのフレスコ画を前にすると、時の流れを忘れてしまいました。

新クリニックが2007年11月5

日に移転オープンしました。クリニックの5メートルの壁に、日本のフレスコ画の第一人者である大野 彩(みさお) 先生が、「ちあきの森」と題する大きなフレスコ画を描いてくださいました。

大野先生は、宮崎 駿 監督の三鷹の森ジブリ美術館のフレスコ画をお描きになられた先生です。

ちあきの森は、クリニックの待合室の森の中からイングリッシュガーデンを通って遠い山の頂を望んでいます。

鹿がのぞいていたりして、まさにクリニックが癒しの森でありたいというテーマの表現です。

新クリニックでも、よくわかる脳神経外科と皆様のお気持ちに少しでも接することのできる“心”療を指す、医療の水先案内人でありたいと思います。主治医であるとともに、いつも皆さんの傍にはべる主治医でいます。

人間の体は、寿命という一瞬の間しかこの世にはいません。

漆喰にかかれたフレスコ画は、悠久の呼吸をしています。我々も、命がある限り魂の宿るこの肉体の手入れをして、いい呼吸をして生きていくようではありませんか!!。